

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200528		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームありがとう一番町 2階		
所在地	静岡市葵区一番町30番地		
自己評価作成日	令和5年2月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホーム裏手に公園と、横には小学校廃校跡地に市民活動支援センターがあり、テニスコートと運動場は市民のスポーツの場で、土日には地域の高齢者がゲートボールを楽しんでいる。広い幹線道路から少し入った住宅街に囲まれ、近くにお茶の町工場が点在し窓を開けるとお茶の香りがホームに広がる。正月やお盆には近くの神社へ出掛けたり裏手の公園へ散歩する等地域への活動を継続している。※コロナ禍であり回数は減っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2294200528-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200528-00&ServiceCd=320&Type=search)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 3月11 日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年度は職員の入れ替えや、利用者の入退去があり、多忙な経験をし、また、各フロアでコロナ感染のクラスターが発生、対応の検証や気づきがあった。これによって職員が団結し乗り越えたので、風通しのよい環境ができ、意見も言い易くなった。この教訓を活かし、今後に繋げていきたいと考えている。職員はそれぞれ特性があり、その特性を活かして全体で良い雰囲気になっているので、今後も知恵を出し合って「利用者の気持ちを大切にしたい思いやりのあるケア」を目指している。事業所は、職員に外部研修に参加し、資格を取得、モチベーションを上げられるよう取り組んでいる。利用者の中には、書道の先生をしたり、塗り絵の準備を皆さんの分まで行ってくれたり、おしぼり巻きを率先して行ってくれる方などもいて、職員は、はりのある生活を送ってもらえるように、できる事の継続と役割を持つよう注力している。コロナ禍でも、家族との面会は工夫して継続している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、笑顔で住みやすい家、ありがとう・・・」のホーム理念をホーム内に掲示し、毎日の申し送りで唱和し実践に向けている	ホーム理念は目につく所に掲示してある。2フロア合同で行われている朝の申し送りで参加している職員で唱和し、共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍であり以前の様に地域の方の交流は少なくなりました。地域の一人として自治会の会合や瓶・缶の回収お当番には参加している。	自治会に加入し、回覧板が届けられ地域の情報を得る事が出来る。自治会の会合や瓶、缶の当番は職員が参加し、公園の清掃や防災訓練はコロナ禍で行われていないが以前は参加していた。事業所の祭りはコロナが落ち着いたら再開の予定でいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや近隣の病院等にホームの情報を開示している。地域の方々との交流を深め理解して頂けるよう努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍に於いてこの2年間書面での開催でしたが2ヶ月おきに開催してきた。家族からの意見や地域包括への報告することによってサービス向上に努めている。	全家族と自治会長、民生員、包括支援センターへ事業所で行われている事の詳細な報告と意見の回答書を送付し、戻ってきた意見は議事録にまとめ再送している。意見は家族からも多く寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の生活に関して市の福祉課担当者と共に連絡を取り合い実情やケアサービスの問題点等も相談する協力関係ができている。	市の福祉課とは密に連絡を取り合い、地域包括支援センター主催の外部研修には興味がある職員は参加出来るよう配慮している。運営推進会議の意見書を直接受け取るなどの関係性も出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は絶対にしない」の姿勢で日々ケアに取り組んでいる。玄関やホームの出入口の施錠はしていない。当ホームに於いてスピーチロックが見られたが定期的にホーム内研修をおこない身体拘束をしないケアの提供に努めている。『身体拘束0宣言』を遵守している。	指針、マニュアルは整備され、全職員に配布している。委員会は職員5人とリーダー、管理者で構成され、3か月に1回ホーム会議で報告をしている。研修は年間計画で2回と随時管理者が必要と感じた時に行っている。	

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的な虐待行為や虐待防止に向け、カンファレンスやミーティング等で話し合い理解を深めている。又、職員同士でお互いに指摘出来る人間関係も大事にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の個々の状況を把握し、必要な方には制度の説明をさせていただいている。現在活用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至る場合は、事前に契約締結に至るまでの流れを説明をさせて頂き、不安や疑問点が解消できるよう十分な説明に努めている。(必要であれば先に書類を渡して目を通して頂いている。)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが、今のところ意見や要望はない。コロナ禍ではありますが利用者のご家族の訪問は比較的多く、訪問時や電話でなんでも話せる関係ができています。	コロナの状況によって面会は窓越しや、各ユニットの入口にテーブル・椅子を設け行ったり、公園で会ってもらったり、工夫してできるだけ継続するようにしている。LINEの動画をみたりZOOMでの対応準備も進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日々の申し送り、業務の中でコミュニケーションを取り合い、意見等を言いやすい聞きやすい環境ができています。又、状況により統括へ意見を求め、回答を得る事もある。	管理者は介護職員を兼務しているので常時職員に声をかけ、意見を聞いている。また、法人本部の統括がグループホームを定期的に訪問して意見を聞き、運営に反映させている。ホーム会議は毎月行われ、意見も多くあり、情報は共有されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和4年12月2階入居者様クラスター対応に於いて今まで無いような労働条件のもと職員は勤務してくれた。それに見合った待遇は難しいが管理者としてはねぎらいの言葉をかけ前向きに勤務できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材の入れ替わりが多かった2年。徐々に落ち着き、未経験で入った職員も夜勤をこなし全体のスキルアップを感じる。事業所内外の研修機会を増やし職員の質の向上を図りたい。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策強化もあり施設内の事が精一杯でなかなか交流の時間や機会が取れなかった。今後外部研修などに参加し同業者との情報交換等を通じ相互訪問等の活動を深めて行きたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時は、ご本人にお会いし生活状況・心身の状態・ご本人や家族の思いなどを傾聴し安心して頂けるよう、また信頼関係が築けるように細かい配慮に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の今の状況、サービス導入に至った経緯、ご苦勞等を傾聴し、ご家族の思いを理解しどのような対応ができるか一緒に解決の方向性を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は特に本人の不安を取り除くべく細かい対応に努め、必要な支援を見極めながら家族と相談の上、状況によっては柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の不安や楽しみ等を把握し共に支え合う関係を作るように努めている。また家族同様の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の様子をご家族に報告し協力関係が築けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を得ながらご本人のこれまでの生活習慣が継続できるよう支援に努めている。 コロナ禍で面会や外出が難しい事もあります。個別の対応で出来る限り支援致します。電話や手紙・年賀状など対応している。	お孫さんが会いに来たり、身内の葬儀への参加等コロナ感染対策をしてできるだけ要望をかなえるようにしている。利用者の友人の面会も家族の確認を得て行われた。写真を入れたり、担当の報告を添えた手紙を毎月家族に送付し、好評を得ている。	

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日生活していく中で役割や活動を通じ、入居者同士の関係が円滑になるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られても、支援内容、注意点などの情報提供し相談事があればいつでも対応させていただき関係を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を中心に話し合っている。お互いの情報共有と確認を毎月のホーム会議で行います。	認知症の基本研修を今年度は力を入れて行った結果、職員の利用者に対する態度や声掛けが良くなっている。困難な利用者には笑顔で接し、安心感と信頼を獲得するように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族とのやり取りの中で支障のない限り、過去の生活環境等の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	料理が得意な入居者様には盛り付けを、事務職が長かった方にはあて名書きを、習字の先生には習字教室の講師をお願いすることによって今できる事の継続と役割を持つ事によりハリのある生活が送れるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議で担当者会議行い、モニタリングは居室担当者やケアマネを中心に行っていく。ご家族やご本人にも意向を伺い反映している。	ホーム会議前に職員からカンファレンスの対象利用者の申告をもらい、担当職員とともに意見交換をしている。モニタリングは担当者やケアマネがシートを使って更新前に行い、家族や医師の意見を聞いて介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の生活状態や気づいたことを記録し、情報の共有を図っている。必要であれば介護計画の見直し変更を行っている。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人または家族の希望に柔軟に答えられるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の防災訓練や清掃活動の参加は少ない。ただ、桜の頃に公園に散歩に出かけ近隣の方々との会話を楽しむことができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診。往診前に職員から日頃情報等Faxで送ってる。24時間対応してくれる協力医療機関を利用している。日頃の状態を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者全員が協力医の往診を受けている。協力医は利用者の体調について24時間体制で相談ができ、場合により往診もしてくれる。また、他科の初期対応もしてくれる。訪問看護師は月4回、利用者の健康チェック、体調の相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化にも気配りし医療や看護に関わることは細かく報告している。看護師や主治医の指示を仰ぎ支援に努めている。週に1回は訪問看護師がバイタルチェックを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院と常に情報交換しどのような状況なのかを把握し本人にとってどうしたら良いか関係機関全体で考え支援の方向性を検討するように努めている。入院前には主治医からの診療情報提供書、退院時には病院からの診療情報提供書や看護サマリーが提供される。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を重視し、契約時に対応できるケアについて説明している。看取りの方向であればその状態に近づいた時、説明・同意を得たうえで家族・医療・ホームが一体となって対応を行いより良い終末期を過ごせるよう支援を行っている。	入居時に重度化、終末期について説明し、本人、家族から希望書を受領している。状態の変化があれば医師が家族に利用者の状態、今後の様子を説明し、事業所は家族と相談の上、同意書をもらい、支援の体制をとっている。職員は看取りの経験があり、研修も行い利用者寄り添った看取りを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応している。対応後スムーズにできたか等反省も含め、申し送りやホーム会議で話し合っている。スタッフ全員が対応できるように実践的研修も行っていきたい。令和4年9月救命救急の講習に2名参加。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員と利用者が協力し避難訓練や消火訓練を行っている。消防計画通り年2回は実施。令和3年の防災訓練で利用者も職員と一緒に水消火器で消火訓練行ってる。令和4年の台風16号では停電・断水があり昼食はカセットコンロやアルファ米での食事作りや断水時でのトイレ等良い経験となった。	昨年の9月に停電と断水の経験をし、今までの備蓄や生活水の課題が新たに見つかった。また、年2回の避難訓練は夜間想定も行ったが避難場所や方法で改善の余地があると気づき、備蓄リストを作成し、備蓄場所も利便性を考え変更した。	実際に災害に遭い、今までのやり方に改善の余地があることに気づき、職員の意見を聞いてより良い方法を模索し、改善出来るよう期待します。また、長期停電の対策は法人本部との話し合いを希望します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を大切に受け止め会話するように心がけている。また利用者の生きてきた時代背景を理解し傾聴・共感に努めている。人生の先輩として尊敬の念を持ちケアにあたってる。	利用者の気持ちを大切にするように、職員全員で取り組んでいる。課題のある場合は、職員同士で互いに指摘している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方から塗り絵やトランプやカルタをやらうと声が上がりに行ってる。水分摂取も好きな飲み物を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを尊重し、体調・様子等を観察し会話を通して気持ちを引き出している。体操・歌・散歩・ゲーム等随時希望に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着脱のできる方は自分で服を選んでいただいている。介助の必要な方は、その日の気温に合わせて声掛けにて職員が見守り支援している。 家族からお化粧をして欲しいとの希望あり、声掛けで化粧を継続している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の準備で、おしぼり巻き、箸スプーン置き、トレイ置き、お茶入れ、配膳下膳等を声掛けにて手伝いをお願いしている。季節の物を取り入れたメニューにし、季節感を感じて頂いている。	配送された食材を職員が調理しているが、利用者に味見、盛り付けを頼んだり、食器やテーブル拭き等能力に応じた作業が継続できるよう支援している。お好み食堂と銘打って利用者個々の希望を聞き、提供したり、誕生日には職員の手作りケーキで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握して個々に合わせた食(おやつ)を提供している。水分があまり摂れない利用者は食事時に声掛けや夜間トイレ時に補水を摂る事で1000cc摂取出来る。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自分でできる方は、声掛けや見守りで支援している。できない方は、個々の身体状況に合わせてケアを行っている。歯科往診あり必要な利用者は歯科衛生士の口腔ケアを受けてる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に2時間毎にトイレ誘導させていただいている。頻回の時は随時支援を行っている。ほとんどの方がリハビリパンツを使用している。利用者でお腹周りに痒みを訴える方があったので布パンツとパット対応で対応している。	2時間おきにトイレ誘導を基本にしているが、個々のその時の状況にあわせて支援している。夜間の誘導も睡眠を重視し、柔軟な時間設定をしてトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄管理している。便秘対策として繊維質の多い食事や水分・牛乳等を提供し自然排泄ができるよう支援している。しかし、薬の服用が必要な方も多く主治医の指示に従っている。毎朝起床時は白湯か補水液を摂取している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保てるよう、入浴を拒否される方に対しても根気よく声掛けして入浴して頂いている。決して無理強いしない。同性の介助を求められる方には同性の介護士が支援を行っている。会話を楽しむ場となっている。	基本的に週2回の入浴支援で、ゆったり入浴してもらえるように1日3人を目安にしている。利用者の思い出話、気持ちを話してくれる場になっている。入浴を拒否される人には声かけ、きっかけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣に合わせて支援している。(早く寝たい、TVをゆっくり見たい)昼夜逆転しないように、なるべく日中起きて過ごせるよう支援してる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報をファイルし職員が把握できるようにしている。状態により薬の変更もある。随時連絡ノートを使い情報を共有できるよう周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの「できる事できない事」を把握し、無理なく参加できる環境を整え支援している。季節の行事を大事にしている。ほぼ毎月の誕生会は居室担当者を中心に行い楽しい事を提供できる。		



静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染(クラスターで2回)もあり外出支援が出来ていない。振り返って4月の桜花見で裏の住吉公園・正月の初詣で住吉神社参拝。	事業所の周辺には、季節が感じられる公園、神社があるが、コロナ禍で外出支援が難しい状況だった。利用者によっては家族の希望で孫の結婚式、身内の葬式に参列したり、成人式での振り袖姿を見せにきた孫と公園で写真撮影をした。今後は花見も計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理することになっている。本人の希望が強い場合、家族の同意を得たうえで少額を本人が持っている方もいらつしゃる。近隣のお宮さんへお参りに行きお賽銭を使ったくらい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望された場合は、スタッフが電話をかけて取り次いでいる。家族からの電話も同様でいつでもやり取りができるよう支援している。手紙を書く利用者1名。今年の年賀状は職員が関わる事で送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの共有部は好きなどころでくつろげるように、椅子やソファを工夫して配置している。幼稚性のある展示物は控え、生活や季節が感じられるよう生花を飾る等配慮している。	リビングには利用者、職員の今年の目標、希望を書いた掲示物、利用者の習字、塗り絵の作品の掲示をしている。椅子やソファでくつろいでいる姿が見られた。職員は、掃除、手すり等の消毒を定期的に行っているが、自分専用のほうき、ちりとりを持っている利用者が掃除をしてくれることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を強制せず自由に好きなどころで過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には今まで使用してきた物、大切にしていた物等を持ってきてくださるようお願いしている。(半数は自分らしい居心地の良い部屋になっている)	備え付けのタンスがあるが、家で使っていたタンス、テーブル、仏壇を持ち込んでいる部屋もある。また、習字や塗り絵などの作品を掲示するなど、自分らしさを出した、居心地の良い居室で過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレ等のスペースも広い。危険の無いように配置を考えている。必要部に手摺も設置してある。※バリアフリー。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200528		
法人名	株式会社 宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ありがとう一番町 3階		
所在地	静岡県静岡市葵区一番町30		
自己評価作成日	令和5年2月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホーム裏手に公園と、横には小学校廃校跡地に市民活動支援センターがあり、テニスコートと運動場は市民のスポーツの場で、土日には地域の高齢者がゲートボールを楽しんでいる。広い幹線道路から少し入った住宅街に囲まれ、近くにお茶の町工場が点在し窓を開けるとお茶の香りがホームに広がる。正月やお盆には近くの神社へ出掛けたり裏手の公園へ散歩する等地域への活動を継続している。※コロナ禍であり回数は減ってる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyvoCd=2294200528-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoCd=2294200528-00&ServiceCd=320&Type=search)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 3月 11日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、笑顔で住みやすい家、ありがとう・・・」のホーム理念をホーム内に掲示し、毎日の申し送りで唱和し実践に向けている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり以前の様に地域の方の交流は少なくなりました。地域の一員として自治会の会合や瓶・缶の回収お当番には参加してる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや近隣の病院などホームの情報を開示している。地域の方々との交流を深め理解して頂けるように努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。コロナ過で書面での開催としてる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の生活に関して市の福祉課担当者と常に連絡を取り合い実情やケアサービスの問題点等も相談して協力関係ができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は絶対にしない」の姿勢で日々ケアに取り組んでいる。玄関やホームの出入口の施錠はしていない。その人の状態によっては、家族に相談しながら、カンファレンスや担当者会議を開催しプランの見直しも行う。『身体拘束0宣言』を遵守している。又、委員会も作り定期的に勉強会を行っている。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的な虐待行為や虐待防止に向けカンファレンスやミーティング等で話し合い理解を深め、チェックしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の個々の状況を把握し、必要な方には制度の説明をさせていただいている。現在 活用されている方もいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至る場合は、事前に契約締結に至るまでの流れを説明させていただき、不安や疑問点が解消できるよう十分な説明に努めている。(必要であれば事前に書類をお渡しして目を通していただいている。)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱(ご意見箱)を設置しているが、今のところ意見や要望はない。ご家族の面会はコロナ過でも出来るだけ対応している。、訪問時や電話で何でも話せる関係ができています。運営推進会議のアンケート用紙に面会や外出についての要望があった。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日々の申し送り時または業務の中で、コミュニケーションを取り合い意見などを言いやすい・聞きやすい環境ができています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員の退社(持病の悪化)やパート職員のコロナ過での戸惑いによって職員退職が続いた。新しい職員の入職に向けて取り組んでる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材の入れ替わりが多かった2年。徐々に落ち着き全体の力量の把握ができてきた。事業所内外の研修の機会を増やし質の向上を図りたい。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流の時間や機会がとることができない。今後、研修などに参加し同業者との情報交換などを通じ相互の訪問など活動を進めていきたい。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居のご相談時は、ご本人にお会いし生活状況、心身の状態、ご本人やご家族の思いを傾聴し、安心して頂けるようまた信頼関係が築けるよう細かい配慮に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の今の状況、サービスを導入するに至った経緯、ご苦労などを傾聴しご家族の思いを理解しどのような対応ができるか一緒に考え解決の方向性を考えていくように努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は特にご本人の不安を取り除くべく、細かい対応に努め必要な支援を見極めながらご家族と相談の上状況によって柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の不安や楽しみ等を把握し共に支え合う関係を作るように努めている。また家族同様な関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の様子をご家族に報告し協力関係が築けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を得ながらご本人のこれまでの生活習慣が維持継続できるよう支援に努めている。また、馴染みの方の来訪や家族との外出などにより関係を維持継続できるよう支援している。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日生活していく中で、役割や様々な活動を通じ入居者同士の関係が円滑になるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られても支援内容や注意点などの情報を積極的に提供し相談事があればいつでも対応させていただく関係を心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や要求、思いを把握し答えられるよう努めている。把握が困難場合は、家族や本人を交えて話し合い意向や思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族とのやり取りの中で過去の生活環境等の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の暮らしの状況から心身の状態や生活状況を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより気持ちよく穏やかに暮らせるように本人だけでなくご家族からも情報を収集し、サービス担当者会議やカンファレンス等で話し合い職員全体で考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の生活状態や気づいたことを記録し、情報の共有を図っている。必要に応じて介護計画の見直し変更を行っている。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人またはご家族の希望に柔軟に応えられるよう取り組んでいる。朝の健康食品や青汁・足のマッサージ器・化粧等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練や清掃活動に参加するなど行ってきたがこの2年間には行ってない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で対応してくれる協力医療機関を利用している。日頃の状態を伝え適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化にも気配りし医療や看護に関わることは細かく報告している。看護師や主治医の指示を仰ぎ支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院と常に情報交換をしどのような状況かを把握し、本人にとってどうしたら良いか関係機関全体で考え方向性などの支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、契約時に対応できるケアについて説明している。看取りであればその状態に近づいた時説明し同意を得たうえで家族・医療・ホームが一体となって対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応している。対応後、スムーズにできたか等反省を含めてホーム会議や申し送りで話し合っている。スタッフ全員が対応できるように実践的研修なども行っていきたい。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、ホーム内でも避難方法を確認している。職員と利用者が協力し避難訓練や消火訓練を行っている。消防計画通り年2回はやっている。ホーム内委員活動で防災委員は3か月に1回活動報告を義務づけている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を大切に受け止め会話するように心掛けている。また時代背景を理解し傾聴・共感に努めている。人生の先輩として尊敬の念をもってケアさせていただいている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに合わせ声掛けしている。会話を通じて、自己決定できるように支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを尊重し、体調・様子等を観察し会話を通して気持ちを引き出している。体操・歌・散歩・ゲーム等レクリエーションを希望に応じて随時取り入れ生活にメリハリをつけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で着脱可能な方は服を選んで自身の生活のクオリティーを維持継続できるように見守っている。介助の必要な方はその日の気温や天気に合わせて職員が支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の準備において、おしぼり巻き・箸スプーン・トレーのセッティング・お茶入れ・配膳下げ膳等の手伝いを声掛けしてお願いしている。季節感を感じて頂けるようにメニューを工夫している。3階には家事の得意な利用者がいて盛り付けや食器を洗う事が日課となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握して、個々に合わせた食事量やおやつを提供している。水分が摂れない利用者には牛乳やアイスコーヒーを提供して。夜間トイレ利用時に水分提供して。		



静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自分でできる方は声掛けや見守りで支援している。できない方は、個々の身体状況にあわせケアを行っている。必要な利用者は訪問歯科で口腔ケアを受けてる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に2時間毎トイレに誘導させていただいている。頻回の際は随時支援を行っている。ほとんどリハビリパンツを使用している。個人の状態を把握し紙パンツ利用を見直すこともある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄管理をしている。便秘対策として繊維質の多い食事や水分、牛乳等を提供し自然排泄ができるように支援しているが薬の服用が必要な方も多く医者の指示に従っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保てるよう入浴を拒否される方にも根気よく声掛けし入浴して頂いている。決して無理強いはしない。同性の介助を希望される方には希望の支援を行っている。会話を楽しむ場になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣に合わせ支援している。(早く寝たい・TVをゆっくり見たい等) 昼夜逆転しないようなるべく日中起きて過ごせるようにしてる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報をファイルし職員が把握できるようにしている。状態により薬の変更もある。随時連絡ノートを使い情報共有できるよう周知徹底している。又薬の戸棚に食後の服薬人数変更時更新してる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの「できる事、できない事」を把握し無理なく参加できる環境を整え支援している。		

静岡県(グループホームありがとう一番町)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過であり外出支援は出来てないがお正月は住吉神社に初詣に行った。又今年成人式の御家族面会時裏の公園で写真を取りに外出した。孫の結婚式に参加したりご家族の協力で外出。4月は今年も桜を見に住吉公園に花見に行く予定。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理することになっている。本人の希望が強い場合、家族の同意の上少額を本人が持っている方もいる。近隣のお宮さんへお参りに行きお賽銭に使ったりができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望された場合はご家族の了承のもとスタッフが電話をかけている。家族からの電話も同様でいつでもやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの共用部は好きなどころでくつろげるように、椅子やソファを工夫して配置している。季節が感じられるような掲示物等掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を強制せず自由に好きなどころで過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には今まで使用していた物、大切にしていた物等を持ってきてくださるようお願いしている。(半数は自分らしい居心地の良い部屋になっている。)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレ等スペースも広い。危険のないように配置を考えている。必要なところには手摺も設置してある。		